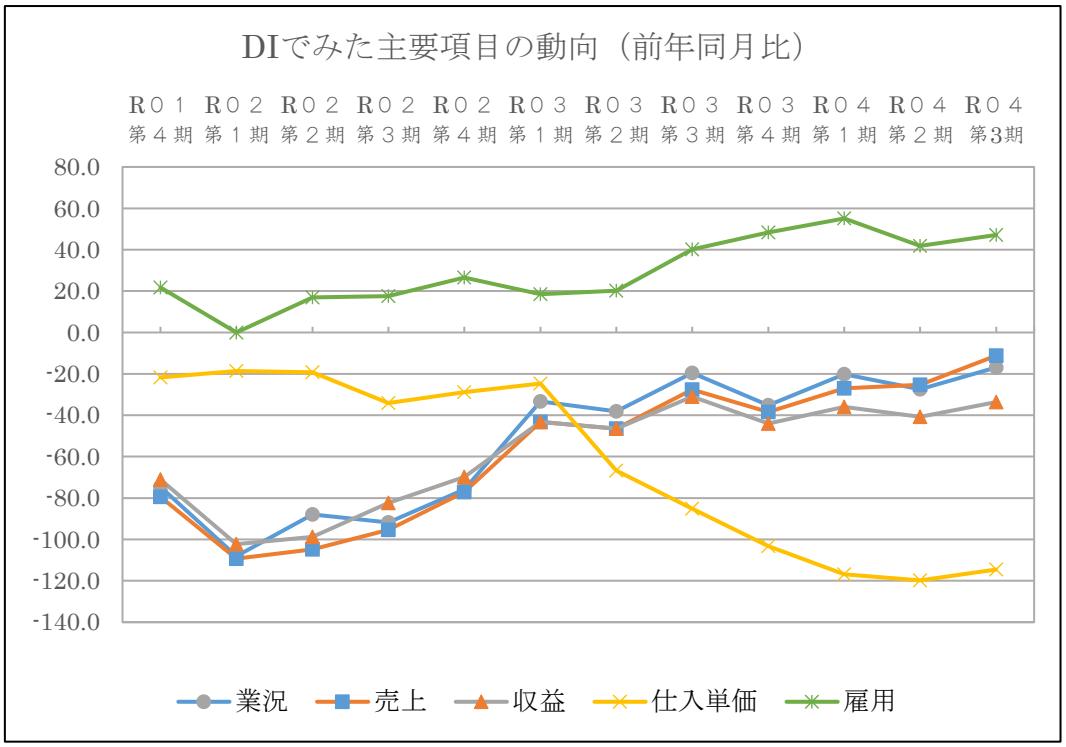
景気動向調査　令和４年度・第３期（令和４年１０月～令和４年１２月）

調査概要

調査対象:赤穂商工会議所管内　120社
回収:89社　　回収率:74．1%
調査対象期間:令和4年10月～令和4年12月（令和4年度・第3期）
DI値:「良い＋やや良い」と判断する事業所の割合から、「やや悪い＋悪い」と判断する事業所の割合を差引き、指数で表します。従って、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感を意味します。

調査結果のポイント



全産業合計ＤＩ

区分	R4第2期 （R4年7月～9月）	R4第3期 （R4年10月～12月）	先行き見通し （R5年1月～3月）
業況	△27.5	△16.9	△18.0
売上	△25.3	△11.2	△18.0
収益	△40.7	△33.7	△39.3
仕入単価	△119.8	△114.6	△86.5
雇用	41.8	47.2	39.3

※雇用 DI については、数値が大きいほど人手不足感を表す

○今期の景況をみると、全産業合計の業況DIは前回調査（R4 年 2 期）に比べ 10.6 ポイント上昇の△16.9 となった。売上 DI は 14.1 ポイント上昇の△11.2、収益 DI は 7.0 ポイント上昇の△33.7 となり、また仕入単価は 5.2 ポイント上昇で△114.6、雇用 DI は 5.4 ポイント上昇の 47.2 となった。

○先行き見通しについては、全産業合計の業況DIは今回調査結果（R4 年 3 期）に比べ 1.1 ポイント下降の△18.0 で、売上DIは 6.8 ポイント下降の△18.0、収益DIは 5.6 ポイント下降の△39.3、仕入単価DIは 28.1 ポイント上昇の△86.5、雇用DI は 7.9 ポイント下降の＋39.3 となっている。

売上ＤＩ

区分	R3 第 3 期	R3 第 4 期	R4 第 1 期	R4 第 2 期	R4 第 3 期	先行き 見通し DI	先行き 期待感
全体	△27.6	△38.5	△27.0	△25.3	△11.2	△18.0	△6.8
建設業	△42.9	△66.7	△73.3	△26.7	△15.4	△23.1	△7.7
製造業	△3.6	△17.9	△44.0	△12.0	4.2	△25.0	△29.2
卸売業	△37.5	△54.5	△66.7	△50.0	△33.3	△44.4	△11.1
小売業	△78.3	△63.6	△3.8	△52.0	△17.9	△25.0	△7.1
サービス業	37.5	25.0	66.7	30.0	11.1	22.2	11.1
不動産・運輸業	16.7	△28.6	△20.0	△16.7	△33.3	33.3	66.6

○産業別の売上DIは前回調査（令和4年 2 期）と比較すると、建設業が△15.4（＋11.3 ポイント）、製造業が 4.2（＋16.2 ポイント）、卸売業が△33.3（＋16.7 ポイント）、小売業が△17.9（＋34.1 ポイント）で改善、サービス業が 11.1（△18.9 ポイント）、不動産・運輸業が△33.3（△16.6 ポイント）で悪化となった。

また、全体の先行き見通し DI は今回調査結果（R4 年 3 期）と比較し△18.0（△6.8 ポイント）となっている。

経営上の問題点
（上位３項目）

区分	R3 第 3 期	R3 第 4 期	R4 第 1 期	R4 第 2 期	R4 第 3 期	前回調査比
売上の停滞・減少	31.0	34.1	28.1	27.5	23.6	△3.9
人手不足	18.4	18.7	18.0	16.5	20.2	3.7
原材料高	19.5	24.2	28.1	25.3	19.1	△6.2

○事業所からのコメント
建設業：仕入価格が不定期に上昇するため、見直しなどで事務の時間増大
製造業：従業員数は適正だが、年齢など構成に過不足がある。
小売業:客単価の売上は伸びているが、点数は伸びない。節約志向が強くなっている。
小売業：半導体不足等で仕入が大幅に遅延する。

<参考>

有効求人倍率

区分	R4.11月	R4.10月	R4.9月
一般（常用）	1.17	1.19	1.04
パート（常用）	1.48	1.43	1.50
一般+パート（全合計）	1.32	1.30	1.24